



特定非営利活動法人

名称変更しました!

日本がん登録協議会 (旧称: 地域がん登録全国協議会)

JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER

年3回  
発行

JACR ニュースレター

September.2016 No.40



## 新生JACRに思う —なぜ名称変更か?—



田中 英夫 理事長

愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部

6月3日に金沢市で開かれました平成28年度の通常総会におきまして、当会の名称を「日本がん登録協議会」に変更することが、全代表会員の賛同を得て可決いたしました。今年度末までは旧名との併記をいたしますが、来年度からは新名で統一することになりました。また、英語表記は現在のものを用いることとしました。

平成24年に47全ての都道府県で全国がん登録事業が実施されるようになり、また本年1月からいわゆるがん登録事業が国の事業としてスタートしました。このような大きな時代の変化を踏まえたこれからの当協議会の活動のあり方について、理事会は議論を重ね、向こう5年間のビジョンとミッションを策定しました。その概要は次頁に詳しくありますが、これまで重点的に取り組んで来ました都道府県単位のがん登録事業への支援活動に加えて、支援活動の対象・範囲をがん患者さんとその家族や、がん登録由来データを利活用する研究者、企業・団体に広げることになりました。また、院内がん登録事業に関しても、各病院毎の医療機能評価にデータを用いる段階から、医療圏や県レベルでの機能評価や医療格差の

是正に向けた取り組みにデータが生かせるような支援活動や、研究発表の場の提供を目指します。そしてJACRの良さは、これらの活動を全国規模で展開し得るネットワークを持っていることです。このような新たな活動方針に相応しい名称として、「日本がん登録協議会」と改名することになりました。

日本では、がんの罹患率を計算できる、人口集団が定義された中で行う登録事業のことを「地域がん登録」と長年称してきました。私も含め、これまで地域がん登録事業に長く関わってこられた方ほど、「地域」という名前が今後次第に使われなくなって行くことに、一抹の寂しさを感じられるのではないかと思います。しかし、JACRが新たな気持ちでビジョン・ミッションに取り組む決意表明として関係者の皆様にはご理解いただき、一層のご支援を賜わることができれば、こんなに嬉しいことはありません。今後、「がん登録」をキーワードとした様々な立場・分野の方がさらにJACRに集い、より深化した化学反応が起きて、日本のがん医療・予防の向上につながることを願っています。



### —メスキュード医療安全基金から寄付金が—

JACRは今年の3月にメスキュード医療安全基金から、24年間に渡る地域がん登録事業への支援の実績を評価され、また、今後のさらなる活動への期待から、寄付金(200万円)の贈呈を受けました。5月30日(月)に厚生労働大臣室において、塩崎恭久厚生労働大臣や坂口力元厚生労働大臣立ち会いの下、目録の贈呈式がありました。当日は田中理事がJACRを代表して、高島浩司メスキュード医療安全基金理事長から目録を受領しました。

新生JACRのスタートの年として、関係者一同、大変励みになる有難い事でした。いただいた寄付金は、個人情報の安全な取扱い体制の整備などの、今後JACRが強化する事業に活用させていただきます。同基金に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。(事務局記)